

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	2 / 1956 / 24-25
タイトル	東岳山系の季節より見た蝶相
著者名	沼田征三

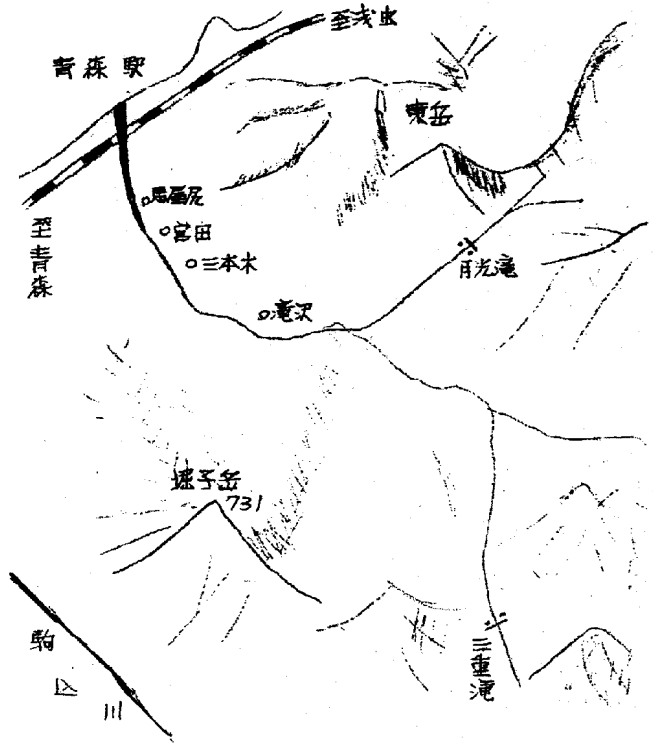
自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 東岳山系の季節より

見た

蝶相

沼田 征三



東岳山系地形略図

青森平原は梵珠山系、八甲田山地、東岳山系と三面に囲まれている。

梵珠山系では梵珠山の昆虫相は衆知の如くであるが、大倉岳、十二岳等は未開発なので興味を持たれるが、一帯はヒバ林なのでやや昆虫相は単純の様に思われるが雪水調査等には適當であろう。

八甲田はフナ科の種物が豊富なので各種ゼフィルスが多く、大型アゲハ、キベリタテハ、ミータテハ、ルリタテハ、エルタテハ(28年8月23日石倉岳附近)等が多い。

一方東岳山系に目を転ずれば、旧市内より比較的近く、訪すれ易い。我々は数年にわたる採集より季節より見た主な蝶相を列記しよう。

青森と残虫の中位に存する野内川を国道より逆上り水田地帯を2km程行くと宮田郡郷がある。そこを過って1kmの所に三本木があり、その西側1.5kmの所に滝沢郷郷がある。そこから、さらに野内川を逆上り下折沢に陸する。二折沢山(921m)と城ヶ岳(731m)の間にある海拔約250~300m程の沢で、山林は針葉樹、落葉樹の比が約1:4で落葉樹はヤマザクラ、ミズナラ、フナ、ナラエノキ等が多い。春先はクニヤクチョウ、ミータテハ、キベリタテハ等が見られ、又道路の崖をくずせば、テントウ虫類の越冬したのが多く見かけられる。4月下旬から5月上旬はルリシジミ、ツバメシジミ、越冬した蝶が見られ、その中からスギタニルリシジミを見つけ出すのは非常にうれしいことである。この蝶は地上すれすれに飛んでいるのが見受けられ、三重川附近に多い。又、山の附近の植物を凝視すれば、ムラサキケマンに、体長4cmぐらいのウスバシロチョウの幼虫が見受けられ、採ってきて飼育して見ると寄生されているのが多い。又、山道にはミヤマセセリ等が行く春を楽しんでる。5月中旬から、そろそろソマキチョウ、ウスバシロチョウ等が発生し始める。下旬から6月上旬にかけてはウスバシロチョウ、ツマキチョウ等の最盛期でサカハチチョウ(春型)、トラフシジミ(春型)も多く、カ

ラスアゲハ、ミヤマカラス、オナガアゲハ等の春型が発生して山路を蝶道というのであろうか、同じ所をスピーチーに飛んでいるのが目につく。又、川原に10〜20頭ものそれらの蝶が日光の直射を受けて吸水している様は印象的である。6月中旬からクジャクチョウ、タモガタヒョウモン等が見られ、これからは各種のヒョウモンが競々と発生する。6月下旬から7月中旬迄は各種ゼフィルスが次々にお目見得する。フジミドリ、ジョウガンミドリ、エゾミドリ、アイノミドリ、メスアカミドリ等が朝日に金縁をキラキラ光らして橋上を乱舞している。その他にはウラクロシジミ、タイセンシジミ、ウスイロオナガ、ムモンアカシジミ等、数多く産する。オオミスジ、ミスジ蝶等も大量に産するのは言うまでもない。7月下旬になると破損したゼフィルスに変わって、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、オナガアゲハ等の夏型が出現する。春型よりはより大きく路上を行ったりきたり、又、水辺に集って吸水している。8月上旬から中旬にかけてはアゲハ類、クジャクチョウ、シータテハ(夏型)、ルリタテハ、コムラサキ、キバネセセリ、又、サカハチチョウ、トラフシジミの夏型、キベリタテハ、ヒョウモン類はオウチギン、スジヒョウモン以外は多く見られない。夏眠しているのかしら？ 甲虫ではミヤマクワガタ、ノゴリクワガタ等が多い。9月に入るとヒョウモン類が見られ、数も多いがだんだん破損していく。ただ越冬蝶が活発に活動するにすぎぬ。(筆者は2年)



## 正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
24	㊦	青森駅	青森湾